



日本クリスチャン・アシュラム連盟

日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 '95.11.1 100



主による私 ルカ10：42

川谷 威 郎

イエス・キリストを信じるようになって、人は人であることから、人になる道を歩み出す。その歩みの核心をなすのが、自分であることの確立である。その確立の途上において、他の人が気になって足並が乱れることがあるのではないだろうか。

トマス・ア・ケンピスは「よく平安の中にある者は、何ごとにも疑いをさし挟まないが、不満をいだき動揺する者は、さまざまな疑いに心を動かされて、自らも安らぎを知らず、他人が安らうのも許そうとはしない」（キリストにならいて）Ⅱ 3. 1」と記す。

ルカ10：40に描き出されているマルタの姿はその実例の一つである。イエスがマルタとマリヤという姉妹のところを訪ねた。マリヤはイエスの話に聴き入り、マルタはイエスの接待に忙しく立ち働いていた。ところがマルタはイエスのそばに立ちより、「主よ、わたしの姉妹はわたしだけに、もてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください」と不満をぶっつけ、注文をつけてしまう。

イエスは答えて「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している」と指摘された。

人は時間の中の一コマで一つのことを行う。意識的にか、無意識にか、選びとったことを良しとすると共に、それに携わる自分を受容することができなければ、不幸である。自己確立の歩みを自覚的に始めていないマルタは、イエスの足元に座って、話に聴き入っているマリヤの邪魔をし、自分も接待を中断する。

マルタに対するイエスの言葉は続く、「しかし、必要なことはただ一つだけである。マリヤは良い方を選んだ。それを取りあげてはならない」。マリヤはイエスの接待で忙しく立ち働くマルタを助けなくて、自分だけがイエスの話を聴くことになった。他方、マルタはイエスの接待に心配りをするのが大切だと思い、今日は自分がするのだ、と決めていたならば、迷いなく、(マリヤが手伝わなくても) やりとおせばよかったのである。

マリヤにイエスの話をきくことを選びとらせるように仕向けた力は、彼女の自分を大切にしている心である。「必要なことはただ一つ」と語るイエスは、行動型と思索型を比べた上で、思索型に軍配をあげたのではない。周囲の人間の動向にひきまわされて、自分の精神の統一を乱す人間と、自分の選び取った道に確信をもつ人間との違いが明らかになった。心を乱しているマルタを名で呼んで下さる主イエスとの交わりの中に、彼女は自分を見出していく。

(関西アシュラム委員・日基教団・千里聖愛教会牧師)



スタンレー ジョーンズ コーナー

どのように祈るか(11)

み霊はわれわの霊を刺激して、み霊に導かれた活動をさせます。主はその栄光のみ腕をモーセの右の手に行かせられた。モーセが腕をあげた時、神はその腕をあげられた。彼らの腕は共に働いた。それは何とすばらしい協力でしょう。

だから静まって、その祈りが本当になるために、あなたがしようとすることを神に申しあげなさい。

第七の踏み段。あなたの心に浮かぶすべての愛すべきことを実行しなさい。この踏み段は重要です。というのはそれが、浄化し、明確にする一歩だからです。愛すべき」という語は大切です。それはあなたの心に浮かぶ示唆の源を見つけるための合言葉です。もしその示唆が愛すべきものでないなら、多分、それはあなたの潜在意識からきたもので、み霊からではありません。み霊の初めの実は愛です。それで、もしその愛と調和しないものなら、それを

しないように。調和する示唆を持ちなさい。

「愛すべき」という語が大切なら、あなたが何事かをしようと思ふばかりで、実際には何もしなすなら、神は「なし」得ないことが分かるでしょう。神はあなたがするのを待って初めて、しようとされるのだからです。あなたの行動が神の行動の水門を緩めるのです。

第八の踏み段。神がご自身の仕方です。神は祈りに答えて下さいます。どんな祈りも答えられないものはありません。しかし、神は「然り」と同じ「否」とも答えられます。「否」は一つの答えです。それはより高次の「然り」へ仕向けるために真によいことかも知れません。

その上、答えはあなたの性格を強くするために遅らせられるかも知れません。何ごとかを永い間うまずに求め続けてやまないことは、およそ考えられる過程の中で最も性格を鍛えることの一つでしょう。祈りが生活態度の中に定着します。それは生活が展開する組織原理でありましょう。神は祈りの答えがすぐに来ようとしてるかどうかがよりも、祈りがそこにあるかどうかを心にかけておられるでしょう。神は我われが、欲

しいものをすべて、そして直ぐに手に入れようとして、精神的な泣き虫にならないように、しばしば我われを遠ざけられます。

アシュラムに出席して

北九州市小倉北区・今村幸文

日本アシュラム四〇年記念九州アシュラムにマシューズ夫婦を迎え、四三名がみ言と祈りに集中して、豊かな霊の交わりに与かることができました。マシューズ師のヨハネによる福音書による福音の時は各章の要点を把握しながら、全体の構造を解きあかさされ、福音のいのちに触れた恵みを受けました。分団ではピリピ人への手紙を三回に分けて静聴し、信仰と祈りをもって読んだ各自のみ言のあかしは真に、主が示された言葉として互いを励ますものでした。

充滿の時に全員が恵みのあかしをし、時間を延長するほどで、一同聖霊に満たされ、喜びを分かち合いつつ献身を誓いました。

北九州市・戸畑区・金氏義憲

第三十回九州アシュラムは九月十一日・十二日マシューズ博士を迎えて開催され、前日の聖日礼拝は日本基督、小倉教会で守られました。アシュラムは四十五名参加、今ま

での最高的人数でした。サトタルでアシュラムを修得されたマシューズ師の助言の豊かな霊性に圧倒されて、御臨在の主の実感に溢れ、終りの充滿の時は全員証言となり、予定を三十分延長するほど充実したものでなりました。

特記すべきは参加者中十六名が牧師で、教会の活性化に役立つアシュラム運動が認められ、今後の教会成長に貢献する喜びを分かち合うことができました。◎アシュラムの生きた体験のあかしを募集します。(字数千程度)

三三二二 今市市言沢五七九一七 編集委員 白川 鄭二

アシュラムの五大原則

- (一) キリストへの明け渡し
(二) 御言への静聴と立証
(三) 聖霊の啓導と充滿
(四) 教会への奉仕と伝道
(五) 神の国の体験と献身

海老沢宣道の新書 神に就いての黙想

B6判、150頁、価1,300円 送料240円

神との生きた対話・交わりを願いつつ綴られた信仰の随想。老熟した著者が現代の教会に問題提起しつつ語りかけるメッセージ。

発売所 キリスト新聞社
取次 日本クリスチャン・アシュラム連盟

天城山荘における第一回
日本アシュラムの誓約

讀むべきかな、我らの主イエス・キリスト。

御導きの下に我らはスタンレー・ジョーンズ博士を中心として、天城山荘のアシュラムに参加し、起居を共にして祈り且つ励み、聖霊の裕かなる恩化に浴し、深い反省と懺悔の裡に、感激にあふれ、奮起を促され、主によりて新たにせられた事を感じし奉る。

今やわが国宣教百年記念運動の展開せられおる時、賜わりし過去の大きな恵みを感じると同時に、日本の教化の前途甚だ多難なるを認め、我らはこの歴史的機會に於て、全身全霊を献げ、相寄り相扶けて福音の証し人として起たん事を決意し、ここに受けたる霊火を携えて帰り、同信の友を糾合し、救霊の運動に邁進せんことを期し、厳かなる神のみ前に連署して、共に再献身の堅き誓約を結ぶ。願くば、主偕に在して、この誓約を全うする力を得しめ給わんことを。アーメン。

一九五五(昭和三〇)年二月十日
天城山荘に於いて

アシュラム出席者一同

第九回国際アシュラムに参加して

飯島庸江

ある猛烈な暑さの午後、いやしの集まりがもたれ、感動的でした。前面に教職の方々が並んで立たれ、肉体的いやし、霊的いやし、霊と肉のいやしのそれぞれを求める人々が祈って頂くために出て行き、順番に教職の方々の前に進みました。私は大石牧師に祈って頂きました。その後は牧師同志の互いの祈りでした。

今回の国際クリスチャン・アシュラムの特記事項は、ロシアのカザンにあるコーナーストーン(隅の親石)教会の共同牧師である、セルゲイ・ボリセンコフ師とユリヤ・ボリセンコフ師による報告であった。この教会はロシアの西欧への門戸解放後に来た。新しい教会であるが、この三年間で、毎日曜日に、七百から九百の会衆が集うまでになっている。以前は、地下教会であることを余儀なくされていたが、今は、キリスト教の伝道は非常に盛んである。二年前イングバー・ホルムバーク師は、カザンにあるセルゲイとユリヤの教会で、クリスチャン・アシュラムを開催し、ラトビアとリトニアでもクリスチャン・アシュラムを開催した。

ユリヤは、クリスチャンであることを告白したため、大学に進学できなくなり、通信教育で学んだ。ユリヤ

は、聖書の一部を教区の信徒のためにロシア語に翻訳し、またスタンレー・ジョーンズ師の「THE WAY」(道)と「THE WORD BECAME FRESH」(うたとばが肉体となった)をロシア語に訳した。スエーデンからの補助により、十二万五千部の「THE WORD BECAME FRESH」が出版され、配布されている。「THE WAY」のほうは、印刷中で、二十万部の配布を見込んでいる。クリスマスへの献金をよろしくお願いしますとのことでした。

日本アシュラム四十年記念出版

◆最新刊・好評◆

今世紀最大の世界的宣教師
スタンレー・ジョーンズ博士著

白川鄭・飯島庸江共訳

いかに祈るか

祈りの人スタンレーが祈りとは何か、祈りの段階と方法と実例を親切に教えている好著

新書判七〇頁

定価六〇〇円 一、九〇〇円

発行所 日本クリスチャン・アシュラム連盟

◆教会その他の祈祷会で用いるのに最適の好テキスト

編集人 白川鄭
発行人 飯島庸江
定価 一部 60円
二部 80円

聖ヨハネによる福音書

D.P.タイタス著 海老沢宣道共訳
価二、二〇〇円 一、二四〇円

御国を来らせ給え

D.P.タイタス著 植村俊雄訳
価三〇〇円 一、九〇〇円

インド途上のキリスト

一九八六年一月改定版
E.S.ジョーンズ著 新訳者 海老沢宣道
価一、九〇〇円 一、三六〇円

アシュラムの原則と実際

海老沢宣道 著 第三版
新書版五、頁三〇〇円 一、九〇〇円

発行所 アシュラム連盟事務局
振替口座 〇〇〇〇〇〇〇〇 一、四五五八

アシュラム生活最良の友
アパ・ルーム

海老沢 宣道 編集

(年6回刊行の日々の糧)

国際的、超教派的、霊的な読物

価250円、千90円、年2,040円(千共)

申込先 256 小田原市国府津3-11

振替口座 00110-7-193834 アパ・ルーム

電話番号 0465-48-2010

日本語版は創刊以来11年続行中

「われらの創始者が語った」

サト・タル・アシュラムに就て
スタンレー・ジョーンズ

キリスト教はもつとキリストらしく、もつとインド的にならなければ、インド人の魂を捉えることはできない。確かに福音は真のインド人を捉え、チラクやラマバイヤやサンダー・シングの如き人物を生んだ。彼らは単なる西洋の模倣でなく印度の伝統を保ちつつ創造的に世界に貢献した。

今日までインドの教会は多少インドの文化から切離され、人々は良い西欧人でもインド人でもない者になった。宣教師はインド文化を伝えることができず、低い階層からの改信者はそれを持つていかなかった。インドは今やその子らをその胸に呼び返しつつある。それは正しい。インドのキリスト者はとまどっていたが、彼もインドの招きを聞いている。サトタル・アシュラムは彼らがインドに帰る助けをするために設けられた。そこは西欧人にはインドの魂に触れる場となるであろう。

名称の意味

古代インドのアシュラムは訓練するために教師が弟子たちと共に引きこもった森の退修道場であった。素な生活と高い思索がその特徴である。

サトタルに於て我らもインドの服装でインド食を摂ることにした。ヒンズー教徒の参加者を迎える時は菜食にする。床に座りサンスクリット調の歌をうたい瞑想の時は膝を折って正座する。

ある人は時代の逆行だと言うが、それは外観であって、内容は教育的、社会的観念に於て極めて現代的である。これによって人種を超えて互いに尊敬し合うことができる。ある人はこれを技巧的と感じるが、西欧の風習を技巧的と思わないように、インド式がここでは、極めて自然に適していることを知る。

いろいろな不便

東洋的になり、インドの歴史の良いものを発見しようとする時、キリスト教の特質を緩和する傾向がある。しかし我らは更に深く主の御心を知り、更に真実なキリスト者になろうとする。インドでは全ての宗教は同じであるという混合主義的傾向が強い。同情的信者は伝道心を失う嫌がある。しかし同情と確信とは共に容易ではないが、必要なものである。同情を捨て確信のみに立つなら、自分の教義は守れるが、自分をもイン

ドをも救うことはできない。

この道は逆行ではなく前進である。同情から確信への道である。我らは教えることができ、しかもメッセージを持つている。この前進のためには、この瞑想の場以上によい所はないと信じる。

初期の日課

午前五時に起床の鐘がなる。各自は松の下などに座って静聴と祈りをする。初めのさんびと終の主の祈りをインド語で共に捧げる。他は終始沈黙の中に守る。単に瞑想するだけでなく、活ける主の御言を自分の魂にしみこませようとする。

朝食後は急いで自室を清掃し、外に出て材木切り、庭掃除、石垣構築などの労作をする。午前八時に研究と共同思索のために集まる。私は新約と人道主義、神学校長はキリストの心についての研究を指導した。九時からヒンズー教の研究、ある教授がバガワド・ギタ(経典)の研究を指導。イスラムその他諸宗教の研究もなされる。午後一杯は自由時間で各自が選んだ方法により思索する。四時半にインド音楽をきくために集まる。六時に湖畔での夕拝を守り、八時の夕食まで沈黙、その後声を上げて一書を読み、グループ毎に話合う。このような日課であった。

アシュラムの精神

ここにはいる者は全ての人種階級教派、信条の区別を捨てよ。

真理の愛より大きな誘因となる宗教や哲学はあり得ない。

イエスは生命の開拓者である。

ここには神の思いが満ちているので、静けさこそ王者である。

このアシュラムはあなたと私たちと神のものである。従ってあなたにとつて個人的自由と全体的兄弟愛と深い敬意を意味する。

ここでは誰も強制されないが、各自は次のことを促される。

ここではキリストとその真理に対する敬虔のみが、インドに対する尊敬を凌駕する。ここではインド精神とキリストの心とを共に荷負う努力をする。

話し合いに於て我らは互いの相異よりも共通の思いに達することを努める。皆が教師であり生徒であらねばならぬ。何より真理の御霊なる主への信頼が必要である。

何人に対しても柔和な言で話し、他人に仕えることを特権とすること。

不満がある者は、陰口を言わず、必ず関係者とざっくばらんに話合うこと。

我らの凡ゆる問題をお互いと神の前に提出し、祈りと瞑想と共同思索によつて道を見出すようにすること。個人的にも全体的にも初代教会の生活に近づくため、神の導きを確保すること。

祈りこそアシュラムの呼吸である。(日本アシュラム誌第三号より再録)